

平成31年度戸田市予算編成における
重点施策の要望書

戸田市議会会派 戸田の会

酒井 郁郎

金野 桃子

浅生 和英

佐藤 太信

矢澤 青河

平成30年10月5日

戸田市長 菅原文仁 様

平成31年度 戸田市予算編成における重点施策の要望書

今夏は30年に一度の異常気象として各地で猛暑が続き、本年4月の島根県西部地震、6月の大阪府北部地震、7月の西日本を中心とした豪雨災害、9月の北海道胆振東部地震など、大規模な自然災害が相次いで発生し、日本各地に甚大な被害を及ぼしました。自然災害の多い日本においては、防災・減災を担う行政の責任は更に大きなものとなり、同時に、復興の要となる地域の絆を育む街づくりの大切さが改めて見直されています。

一方、国に目を転じれば、少子高齢化に伴う社会保障費の増加や北朝鮮情勢を踏まえた防衛費の拡大、来年10月に予定されている消費税10%への増税とそれに伴う景気対策費用など多くの国家課題に直面しています。平成31年度予算の概算要求額は過去最大の公算となっており、これまで以上の「集中と選択」が求められています。

このような状況下において、戸田市は平均年齢が40.5歳と23年連続で県内一若く、将来的にも引き続き人口が増加し、今年度中には人口14万人を突破することが見込まれるなど、人口減少社会のなかにありながら住民に選ばれ続けているまちであると言えます。同時に、今後本格的な更新時期を迎える都市基盤・公共施設など、財政を圧迫する要因は多く、本市の行財政運営に関しては、議会のみならず、市民の関心も日に日に高まっております。

そして、本年3月の戸田市長選挙において、菅原文仁戸田市長が県内一若く、かつ、実に20年ぶりの新市長として誕生しました。1期目のスタートを切られ、初の予算編成を組まれる菅原文仁新市長におかれましては、将来を見据え、より一層適正かつ公平な行財政運営が期待されています。

私たち戸田の会は、二元代表制の一翼を担う議会の一員として、日々戸田市のために活動しています。こうした活動の中から、わが市に資すると考える事項を「平成31年度予算編成に対する要望書」としてとりまとめました。厳しい財政状況下ではありますが、特段のご配慮を賜いますよう、ここに要望いたします。

戸田市議会会派 戸田の会

代 表 酒井 郁郎

幹事長 金野 桃子

浅生 和英

佐藤 太信

矢澤 青河

総務部

- 場所・時間にとらわれない柔軟な働き方や、同一労働同一賃金を実現すること。
- 多くの職員が評価する「多面評価」を用いた、納得性を高め、職員の成長やモチベーション向上につながる評価制度を導入すること。
- 年功序列による弊害を解消し、責任に応じた処遇を得られ、頑張る職員が報われる給与制度を導入すること。
- 複線型人事管理制度の導入を実現し、専門技術の蓄積と職員のモチベーションアップにつなげること。
- 幹部人材の育成や専門性の強化など、戦略的な職員育成を行うこと。
- 災害時の迅速な対応や平時の市内状況把握のため、職員の市内居住を促進する制度への見直しを行うこと。
- IT投資を通じた内部業務の効率化と市民サービス向上を図ること。
- 議会と同様の会議システムを早期に導入し、議会对応や庁内会議の効率化を図ること。
- 不当要求に対する抑止力とするために、口利き防止条例を制定し、議員その他の有力者からの要望を全て記録・公開すること。
- 障害者雇用の推進を図り、職場の環境整備、職員同士が支え合う体制を目指すこと。
- 見にくさ、検索しにくさを解消し、誰もが便利で使いやすい戸田市ホームページのリニューアル・ユニバーサル化を進めること。
- AI、自動運転、ドローン、RPA など最新技術の情報収集、活用法など、調査研究部署や窓口等の創設を行うこと。
- 適材適所に人材を配置することをさらに推進するために、フレキシブルな人事異動制度導入、部長にも一部の人事権を与えること。
- 地域防災力を高めるため、タイムラインや避難計画策定、防災訓練などを町会ごとから小学校区の単位へ移行していくこと。
- 水害時の避難は、建物だけではなく高速道路を含めた高所への移動を想定し、町会・自治会そして、市民一人一人が避難経路を含め避難計画を立てられるよう支援を行うこと。
- 消防職員や救急救命士の増員を図ると共に、病院等との連携により、迅速な搬送体制の構築を更に進めること。

財政部

- 随意契約の見直しを図り、公平公正な公共調達を図ること。
- 民間導入を推進するあらゆる施策を実施すること。
- 決算で無駄に過剰な不用額が出ないように、予算についてはしっかりとチェックを行うこと。
- 債権確保強化を図るため、民間会社への実務研修等、スキルアップを図ること。
- 不納欠損額を減らすため未回収の税・保険料・保育料などを取りまとめ管理する債権部署の創設を行うこと。
- 補助金の発掘機能の強化を行うため、専門の部署を設置すること。

市民生活部

- 警察署と協力し、交通事故の発生地点ごとの状況把握と適正な対応を行うこと。
- 地域連絡員制度の導入を行い、町会負担の軽減と、地域要望の聴取機能の強化を図ること。
- 市の配布物を全戸配布とし、不公平を是正すること。
- 2025年デフリンピック（日本開催の場合）誘致を働きかけること。
- 子ども安全見守り隊に対しての担当課を明確にし、備品の支給等の必要な支援を行うこと。
- 軽犯罪抑制、安心安全のため、市管理運用による防犯カメラ増設を行うこと。
- 外国人労働者の現状調査を行い、住居地域との摩擦に応える相談支援体制をととのえること。
- 2020年東京オリンピックパラリンピックに向けて、ボート競技などのキャンプ場誘致やボートコース整備の他、無料公衆無線 LAN（Wifi）整備や情報提供、ガイドなど来訪者の歓迎や支援体制を整備すること。
- toco バスの健全化のため、市民に対する現状説明を行い、収支率の見直しなどの基準を設け、一方で、多様な経路検索の実現など利用者の拡大を図ること。
- 自転車通行整備に伴い、自転車利用のルール周知啓発とともに、交差点などで違反者に対して自転車指導啓発を行い、安全で良好な自転車環境を進めること。
- 戸田の誇りであるボート競技を始め、球技や体操、アクティブスポーツなど多様化するスポーツ環境整備を進めること。

- 市内 3 駅ホームドアの設置による課題検討について、市と民間会社（JR）が一体となって早急に進めること。
- ふるさと祭りの市役所周辺での開催を実現すること。
- スポーツセンターの大規模修繕、または建て替えに向けて第 2 スポーツセンター構想を打出すなどの準備を行うこと。

環境経済部

- 「殺処分ゼロ」を目指し、県補助金等を活用して、TNR 活動や里親会等を軸とした地域猫活動を推進すること。
- 公民連携専用窓口の設置、包括協定の締結、ネーミングライツの拡充など、民間活力を生かした官民連携を推進すること。
- 戸田市の地域特性に合致した先端産業の誘致を行い、長期的視点による産業育成を行うこと。
- 化学物質に対する正しい知識の周知啓発を進め、化学物質に悩む方に対しての相談支援体制の強化、相談員のスキルアップを行うこと。
- 環境に優しい自転車やシェアサイクルの利用を促進するとともに、戸田公園駅をはじめとする市内 3 駅と道満、ポートコースを結ぶサイクリングコース整備を進めること。
- 戸田ポートコース(漕艇場)及び、彩湖への市民がボートに親しめるイベント、そして、ボートを漕げる環境の整備を行うこと。
- 時代を見据えて、アジアとの国際交流を更に促進すること。
- 市内公園の見直しを行い、ボール遊びができる公園や民間デザインの公園など多様な公園整備を進め、こどもや青少年の居場所や遊び場の整備を進めること。
- 積極的な国県市の連携とともに、学校、企業、地域社会が協力して若者の自立支援を進めること。
- ごみ削減や食品ロス削減とともに、資源ごみの持ち去り対策を進めること
- 雨どいに落ち葉が詰まったり、寿命による倒木が起こったりすることから安全を確保するために、川沿いや沿道の過剰に伸び過ぎた又は太過ぎる樹木の、伐採をはじめとする管理を徹底すること。

福祉部

- 市民医療センターの抜本的な経営改善を早期に行うこと。
- 民間の体操施設の利用促進を促し、中高年が気軽に利用できる運動拠点を確保すること。
- 人生 100 年時代を想定した「就労」「生きがい」「健康づくり」等、総合的な施策を部局横断的に実施すること。
- 2020 年度制定予定の手話言語条例制定について、当事者の声を聞き、必要な環境整備を行うこと。
- 人工内耳や補聴器の購入に助成金制度導入を進めること。
- ホームレス対策として、他部署との連携や就職支援策の強化を進めること。
- ダブルケアやヤングケアラーの実態把握、負担軽減等の支援を図ること。
- 里親への理解、里親が必要な子どもたちのために里親制度の啓発を計画的に行い、里親家庭数の目標値などの計画を策定すること。
- ひとり親の負担軽減のため、質の高い、寄り添ったわかりやすい相談支援となるよう、さらなる充実、強化と拡充を行うこと。
- 18 歳以上の引きこもりの実態調査と対策の実施を進めること。
- 地域包括ケアシステムのさらなる推進のため、部署間をつなぐ、または縦割りを超える権限を持つコーディネーターの配置（社会福祉士などの有資格者）を行うこと。
- 福祉課題が個人から世帯全体に移り部局間をまたいでいるため、世帯の複合的な課題に対応できるよう、行政の縦割りを超える権限を持つコーディネーターの設置を行うこと。
- 健康増進のため、自転車利用の促進などを行うこと。
- 障がい者の就労場所の確保や親なき後の支援を行うとともに、学校交流など市民へ障がいに対する理解を深める普及啓発活動を進めること。
- 18 歳以降の障害者が各々にあった多様な活動や生活を送れるよう、居場所確保や支援体制を進めること。

子ども青少年部

- 保育所及び学童保育室の拡大を図り、質量ともに「待機児童ゼロ」を図ること。
- 「子ども食堂」の新設支援、子どもの学習支援等、経済的事情を抱える子どもの支援を強化すること。
- バウチャー制（利用券方式）の拡大により習いごとや子育て支援サービスへの適用拡大により、サービスを利用しやすくすると同時に市内事業者の育成を図ること。
- 書類提出における煩雑な手続きの簡略化を図ること。
- 児童館利用が地域に公平となるよう、送迎などの工夫を図ること。
- 学童保育等子育てにかかる書類のネット申請を可能にし、子育て世帯の負担を軽減すること。
- こども家庭相談センターの研修を充実させて、相談員の質の向上を図ること。
- 各種がん検診の受診率向上と市民への普及啓発、情報提供やピアサポートなどがん患者への支援の充実を進めること。
- 家庭児童相談員の拡充を行い、相談機能の更なる充実、学校との連携を担うコーディネーター（教育委員会教頭格）の創設と福祉部への配置を行うこと。

都市整備部

- 公共施設の大規模改修等の計画に際して、環境整備を円滑に図るため、専門知識に特化したバリアフリー担当を設置すること。
- 交通整備に際しては、当事者の声を聞き、点字ブロックや音響式信号等の環境整備を進めること。
- 北戸田駅周辺など街灯整備や危険地域の安全対策を進めること。
- 人口の急増している向田地区の地区計画を進め、市民要望の多い、公園整備や歩道・信号等交通安全整備を進めること。
- 道路幅員の確保、景観形成、バリアフリー等を進めるため、無電柱化を推進すること。
- みどり川、笹目川、さくら川沿いのウォーキングコース整備を行うこと。

上下水道部

- 冠水等対策として、合流式の下水道の改善や分流式への変更など適正に進めること。
- 道路冠水ゼロを目指し、問題の調査、雨水排水機能の計画策定と実施を行うこと。

教育委員会

- 熱中症対策の強化として、体育館へのエアコンまたはクールスポットの設置、運動会・体育祭等での児童・生徒席用テントの設置等を検討すること。
- 夏季プールにおける日よけスイムキャップやラッシュガードの制式採用、日焼け止め使用の解禁などを一律に行い、児童・生徒の健康対策を万全とすること。
- 図書館でのカフェ、親子読み聞かせブースの増設等、市民が集える図書館づくりを目指すこと。
- 特別支援教室の新設、ユニバーサルデザイン教育の推進、特別支援教育指導者の育成、特別支援教育の充実を図ること。
- PTA や保護者会における強制加入の防止や負担軽減などの指導を一律に行うこと。
- 小中一貫校の拡大と共に、習熟度別クラス、多学年混合クラスの導入を検討すること。
- 教育委員会改革に向け、教育委員の公募制導入や一般市民・保護者枠の拡大を行うこと。
- 条件付き返還免除の高校生・大学生向け奨学金を新設し、貧困家庭の進学を支援すること。
- 医療的ケア児の受け入れ、看護師の配置により、各人の教育ニーズに応じたインクルーシブ教育を充実すること。
- 心理相談の専門性を高めるため、心理相談員の常勤職を配置すること。
- 市内全学校の動物飼育環境の整備やこども動物園創設により、学校教育・乳幼児教育支援を行うこと。
- 児童虐待の親子理解を促進するため、スクールソーシャルワーカーによる虐待防止のための親子研修を全小中学校で行うこと。
- いじめ対策の 1 つとして、児童や保護者にアンケートを実施、SNS相談窓口の活用検討を行うこと。
- 美女木小学校から笹目中学校へ進学を希望する児童全員が進学できるようにすること。
- 学区調整を柔軟に行うことにより、学校規模を適正に保つよう務めること。
- 建て替え中の学校で、運動会などの行事が中止とならないよう、近隣の学校や、スポーツセンターなどの代替施設を活用できるよう計画を立てること。